

3. 政治家になる方法

(政治の必要性はわかった。しかし、オレには金もコネもなにもない。地盤・カンバン・カバンがない。現実に当選できないだろう。) そう思う人も多いだろう。そんな人を政治家にするために私は生きています。

政治家になるには、いろいろ手がある。創価学会に入信して長年地道に活動していくとか、整形手術をしてセクシーな女性になり、女に弱そうな党の有力者をたぶらかすとか、いろいろてがある。都市部の若者は、新党の風に乗れ、イメージだけでいこうという奴が多い。以上、いずれも私の好きなやり方ではない。

塩浜流のやり方は、しつこさと情熱だけで強引にいくというものだ。私は、塾経営でも受験でも何でもそれでやってきた。

具体的に言おう。私は、次のことができれば、必ず政治家になれると確信する。その後のことについてはまた教えるから、次のことができるという人は私に申し出てほしい。

(1)月1回、自分の政治に対する考えを文章にまとめ、持ち歩く。チャンスさえあれば、どんどん人に配る。

(2)毎週10人以上と名刺を交換する。名刺交換したら3日以内に葉書をだす。

とりあえず、これで良い。そのうちに、金やコネをくれる人が勝手に集まってくる。金集めやコネ集めで無理せず、勉強に力を入れてほしい。政治家にはなれる。それよりも、なってから何をどうするつもりか、政策研究に力をいれてほしい。

4. おすすめのマンガ・気をつけてほしいマンガ

勉強のために読んでほしい本は多くあるが、いきなり難しい本をすすめてもだめだろう。まずは、マンガで基礎知識をつければ、本をよみやすくなる。

(1) 歴史マンガ

歴史は、知恵の宝庫である。迷った時、ここからさまざまなアイデアを見出すことができる。また、自然科学と違って社会では実験ができない。結果予測を歴史を利用しておこなうことができる。私が、政治につき予測を次々と的中させるのは、私がいつも歴史を勉強しているからである。

気をつけるべきは、手塚治虫大先生の歴史マンガが良くないということ。私は、手塚治虫を尊敬しているが、歴史マンガはどれもこれもだめだ。彼は、余計なことをしすぎる。存在もしなかった勝手な恋人などを登場させ、どこまでは歴史上の事実で、どこまでが彼の創作か、わからなくさせるのである。そして、登場人物の発想がみんな現代的である。大昔の女性が「イヤーン」「キャッ」などと言う。や

めてくれ。

(2) SEED (シード) 集英社ヤングジャンコミック
日本の海外協力が、むしろ原住民の迷惑になることが多いと言うことを知るにはよい。

(3) 集英社ドキュメントコミックシリーズ◎
今の所、全部良書。私は何度泣いたことか。全部読もう。

(4) YELLOW 小学館
(2)にも通じるが、海外協力が、ともすると陥りがちなワナを描く。

(5) 大と大/加治隆介の議/クライマックス
いずれも、若い政治家が、従来の常識に挑戦していく熱いドラマ。クライマックスは多分絶版なのではないか。加治隆介の議は、勉強になるが、気をつけた上で読むこと。私に言わせると、この作者は、マインドコントロールをやっている。

作者と同じ主張をする主人公は、若く、かっこ良く、反対の主張をする者は、くそじじいか、ブスなおばさんである。そして、一見両方の立場の意見を出したようにみせかけながら、とんでもない不公平をやっている。くそじじいやブスおばさんが少し意見をいうと、カッコイイ主人公が何倍もの長さで反論する。くそじじいやブスおばさんは感情的に怒鳴り、カッコイイ主人公は、理論的に冷静に話す。ついにくそじじいやブスおばさんは冷や汗を流しながら、「クッ…」とか「ウッ…」と言って答えに詰まるのである。

このマンガにだまされて、全国でどれだけの人が洗脳されたかと思うと悔しくてならない。私もマンガが描けたらなあ。

理想を追求することは、大切だが、現実離れしてはいけない。秩序と自由とは共に大事なもののだが、時として相矛盾する。

加治隆介という男は、理想と現実では、現実を、自由と秩序では、秩序を偏重しすぎるように私には思われる。私から見ると、この男は、小沢一郎とストーカーを混ぜて、外見だけカッコ良くしたような奴である。思想は、二・二六事件の犯人並に危険である。このマンガを読む時は、わざと主人公に対して反論を考えるぐらいのつもりでよんで丁度良い。

(6) 栗田のトラクター
他の本で十分理想を確立してから読もう。「現実」的すぎてドロドロした本で、初心者にはすすめない。昔流の政治家が汚い手口で金と票を集める方法が書いてある。

(次号に続く)